

戦後俳句を聞く (2)

～竹中宏の「写生」と「定型」～

昭和から平成へ。戦後俳句から、現代の俳句へ。

俳句の可能性をひろげてきたトップランナーたちに、その歩みを聞く。

第二弾は、中村草田男の系譜を継ぎ、独自の句風を誇る竹中宏氏。

写生とはなにか、定型とはなにか。俳句形式を問いつける竹中氏の思索に迫る。

日時：2019年6月22日(土) 14時00分～(13時30分開場)

会場：柿衛文庫講座室

参加費：無料

参加申込：seinenbu@kangempai.jp までお申し込みください



竹中宏 (たけなか・ひろし)

昭和15年(1940)京都市生まれ。中学生のころ俳句に出会い、1958年「萬緑」入会、中村草田男に師事。京都大学に進学、京大俳句会に所属する。卒業後は一般企業に就職するが、大阪府立高校教員に転じ、国語を教える。1988年から「翔臨」を創刊、主宰。句集に『饗饗』(牧羊社)、『アナモルフォーズ』(ふらんす堂)がある。

聞き手／久留島元・野住朋可(関西現代俳句協会青年部)



公益財団法人柿衛文庫 案内図
(兵庫県伊丹市宮ノ前 2-5-20)

阪急伊丹駅より東へ徒歩9分・JR伊丹駅より西へ徒歩7分
阪急バス伊丹中央停留所下車北へ徒歩2分
伊丹市立宮ノ前地下駐車場(有料)をご利用下さい。

